第63回

新潟県小中学校PTA研究大会

小千谷大会 報告書

期日

令和6年10月6日(日)　12:40～16:50

会場

小千谷市民会館

大会主題

考えよう　持続可能な意義あるPTA活動
～未来の会員のために～

大会趣旨

子どもたちのより良い成長は、保護者、教職員共通の願いです。しかし、様々な事情から双方が協働する組織を解散する現実が全国各地にあります。共通の願いを持つ者同士だからこそ、それぞれの立場を活かし価値ある協働組織として後世に受け継ぐ必要があります。

よって、PTAの在り方を再確認、再発見し、未来に向けた改革へのヒントを共有できる研究大会を実施しました。

ＹｏｕＴｕｂｅで記念講演・
パネルディスカッションの詳細を
ご覧いただけます

主催：新潟県小中学校PTA連合会
共催：小千谷市教育委員会
後援：新潟県教育委員会　(一社)新潟県PTA安全互助会
主管：小千谷市PTA連合会

開 会 式

小千谷市にある市民会館を会場に、森本実行副委員長の開会の言葉から研究大会が始まりました。
ご来賓を含め会場参加者が約３００名。オンラインでの参加者が約２２０名での開催となりました。

会長挨拶

新潟県小中学校PTA連合会　　会 長　**宮下 あさみ**

本日は、多くのご来賓の方々よりご出席を賜り、「第６３回新潟県小中学校ＰＴＡ研究大会小千谷大会」を開催できますことを厚く御礼を申し上げます。
はじめに、今年度に入りすぐの１月１日にありました能登半島地震、そして能登半島北部での豪雨災害により、多くの被災者、そして亡くなられた方々に心より哀悼の意を表します。その１月１日に起きた能登半島地震においては、被害に遭われたのは近くだけではなく、新潟県にも及びました。その際には皆様から支援金助成にご協力いただきまして、ありがとうございました。日本ＰＴＡ全国協議会を通し、石川県を中心に被災した富山県ＰＴＡ連合会、新潟市小中学校ＰＴＡ連合会、そして新潟県小中学校ＰＴＡ連合会の方に助成していただきまして、その分配金を被災したお子さんのいる家庭に分配させてもらいました。ご協力くださいました皆様本当にありがとうございました。
さて、現代の社会の特色として少子高齢化、グローバル化、そしてインターネットを中心に情報ネット社会。近年、インターネットの普及とともに、ネットいじめの問題も深刻化しています。県内でもいじめ問題による不登校や命に関わる事態になるような残念なことが起きています。当会としてもこの問題を行政や各関係団体と連携しながら考えていくとともに、これからも情報を発信していきたいと思います。
今大会の主題は、「考えよう　持続可能な意義あるＰＴＡ活動～未来の会員のために～」です。今年は例年とは違った視点で開催されます。私たちＰＴＡは、例年、役員決め、最近ではＰＴＡの存続について問題になってきています。保護者、教員の皆さん双方からも負担が大きいという問題があります。本当にＰＴＡは必要なのか？とよく耳にします。とても大きな課題になってきています。
しかし、ＰＴＡは無くなってはいけない存在、形を無くしてはいけないのです。保護者と学校の双方を繋ぎ、地域を繋ぐ大切な架け橋です。子どもたちのために活動しているのがＰＴＡ。でもそれすら何が子どもたちのためなのか、自分に問いかける人が多いのではないでしょうか？
今年の大会は、いろいろな分野からＰＴＡ問題に取り組んできて、改革を実践、成功された講師の皆様から、私たちにとって考え方が変わるお話がぎっしり詰まった講演会、パネルディスカッションのお話が聞ける内容です。是非これからの参考にしていただきたいと思います。私は、今回の大会実行委員長の山田会長と話をしていて、考えさせられ強く心に響いた言葉があります。「今だけではなく、これからを見据えて、後世の人たちのために今、変えられる時に変えよう。変えようと思った人が今も、もちろん、そして今後のこれからのＰＴＡ役員をやっていく人たちにとっても負担が少なく、やっていくことのできる形に作り上げてあげたい。今後もっと大変になる人たちに負担がかからないＰＴＡ活動をしていきませんか。」という話をしてくれました。聞いていて凄く心を打たれました。皆さんもＰＴＡの在り方を再認識し、今、そして未来に向けたヒントを、この大会をもって学び、参考にしていただきたいと強く思います。必ず参考になるはずです。
最後になりましたが、１年以上にわたり、この研究大会の開催に向けてご尽力いただきました小千谷市ＰＴＡ連合会大会実行委員の皆様方に深く敬意を表するとともに心より感謝を申し上げ、開会の挨拶といたします。

祝　辞

新潟県教育委員会　　教育長　**佐野 哲郎 様**

新潟県教育委員会　教育次長
坪川 孝子　様（代読）

第６３回新潟県小中学校ＰＴＡ研究大会小千谷大会の開催にあたり、一言お祝いを申し上げます。

本大会が、県下全域から多くの会員の皆様の御参加を得て、このように盛大に開催されますことを、お喜び申し上げますとともに、開催に当たり御尽力された新潟県小中学校ＰＴＡ連合会並びに小千谷大会実行委員会の皆様方に対し、深く敬意を表します。

また、本日お集まりの皆様方におかれましては、日ごろからＰＴＡ活動に熱心に取り組まれ、子どもたちの健やかな成長に向けて、御尽力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

そして、本日表彰を受けられる皆様、誠におめでとうございます。心からお祝いしますとともに、今後のますますの御活躍を祈念申し上げます。

さて近年、人口減少、少子・高齢化の急速な進展、デジタル化、グローバル化の波など、日本の社会構造が大きく変わろうとしております。

こうした、将来を見通しにくい、不確実性の時代において、学校教育に求められることは、児童・生徒一人一人に、社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる資質・能力を育成することだと考えております。

県教育委員会では、学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の着実な実施を通じ、本県教育の基本理念である「一人一人を伸ばす教育」の実現に向け、各種施策の取組を進めるとともに、安全に安心して学べる学校づくりに向け、引き続き取り組んでまいります。

今日、核家族化をはじめとした家族形態の変容、地域のコミュニティ機能の低下など、子どもたちを取り巻く家庭や地域の環境が変化する中、ＰＴＡは、学校、家庭、地域をつなぐ要として、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えていく重要な役割を担っているものと認識しております。

一方で、共働き世帯の増加や価値観の変化、教員の多忙化などを背景として、ＰＴＡ活動のあり方について、様々な御意見があると承知しております。

そのような中で、本大会が「考えよう　持続可能な意義あるＰＴＡ活動～未来の会員のために～」をテーマに開催されることは、これからのＰＴＡのあり方を問い直す良い機会であると同時に、持続可能な意義あるＰＴＡ活動を深く考えるきっかけになると考えます。

皆様方におかれましては、本日の大会で得られた成果をそれぞれの活動に活かしていただき、次の時代を見据えた、未来につながる提案が生まれることを大いに期待しております。

結びに、本日の大会が実り多いものとなりますとともに、子どもたちの輝ける未来と、本日御参集の皆様方のますますの御発展と御健勝を祈念しまして祝辞といたします。

小千谷市　　市長　**宮崎 悦男 様**

第６３回新潟県小中学校ＰＴＡ研究大会小千谷大会の開催、誠におめでとうございます。県内各地のＰＴＡ会員の皆様が一堂に会し、「考えよう　持続可能な意義あるＰＴＡ活動～未来の会員のために～」を大会主題として講演会や実践発表が行われるとお聞きしております。

現在、社会環境の変化は著しく、大人だけでなく子どもたちにとってもあらゆる面で影響を受けやすく、社会生活の向上に役立つものがある反面、有害なものにも容易に触れることができる状況にあります。その中で子どもたちが取捨選択できないものは大人が責任を持ってきちんと教えてあげることが大切です。そのためにも大人自身が広くものを見る目を持ち、子どもたちと接する事が重要であると考えております。

さて、小千谷市は、日本一の大河「信濃川」の河岸段丘に発達したまちで人口は３万２千人、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された「小千谷縮」や国魚「錦鯉」の発祥地として知られているほか、「へぎそば」や「ラーメン」という食の分野においても注目をされているところです。

教育については、ＰＴＡや青年会議所の皆さんの意見をお聞きし、おぢやっ子教育プランを定め、「自ら考え　心豊かに　たくましく生きる　小千谷の子ども」を主題として、学校だけでなく家庭や地域がそれぞれの役割を果たせるよう取組みを続けています。

教育施設としては、日本で最も古い公立小学校として現在の小千谷小学校の前身である「振徳館」が明治元年１０月に開校した場所でもあります。また、先日、振徳館の近くに、ひと・まち・文化共創拠点「ホントカ。」がオープンしました。図書館と郷土資料館、市民活動や子どもの遊び場として誕生しました。本大会をきっかけに、小千谷市の新たな魅力を発見していただけましたら幸いです。

終わりに、本大会が、ＰＴＡ会員の皆様にとりまして、有意義なものであるとともに成功裡に終了されますようご祈念申し上げるとともに、本大会を開催するにあたり、ご尽力いただきました地元小千谷大会実行委員会を始め、関係各位に深甚なる敬意を申し上げまして、祝辞といたします。

表彰式

新潟県小中学校ＰＴＡ連合会表彰

　団体表彰は１５団体､個人表彰が２５名､個人感謝状は７５名の皆様が表彰されました。受賞された方々、おめでとうございます。
　今までのＰＴＡへの貢献に心より感謝と敬意を表します。

■団体表彰の部　見附市立
　見附特別支援学校PTA　様

■個人表彰の部
　新発田　井澤翔太　様

■個人感謝状の部
　小千谷　阿部博明　様

新潟県教育委員会からのお話

新潟県教育庁　保健体育課　　課 長　稲川 俊啓 様

テーマ　部活動の地域移行について

1. なぜ地域移行を進める必要があるのか
2. 新潟県のこれまでの取組と進捗状況
3. 市町村の取組内容と課題
4. 最後に～誰のための地域移行なのか～

これらについてお話をいただきました。
課長は、指導者確保について、会員の皆様にもぜひ協力をお願いしたいと強く訴えかけておられました。そして、子どもたちのための取組であることから､子どもたちの目線に立って進めていくことが大切であるとのことでした。

書籍販売ブースの設置

ＰＴＡのトリセツ　学校のトリセツ

　記念講演の講師お二人の共著販売。１００冊以上お買い上げいただきました。
　ＰＴＡ改革への関心の高さが伺えます。

記念講演

ここから始まれっ！ＰＴＡ新時代!!　これからの公教育が求める学校と保護者の役割

趣旨説明　小千谷大会実行委員長　山田 一郎

本日は、小千谷大会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

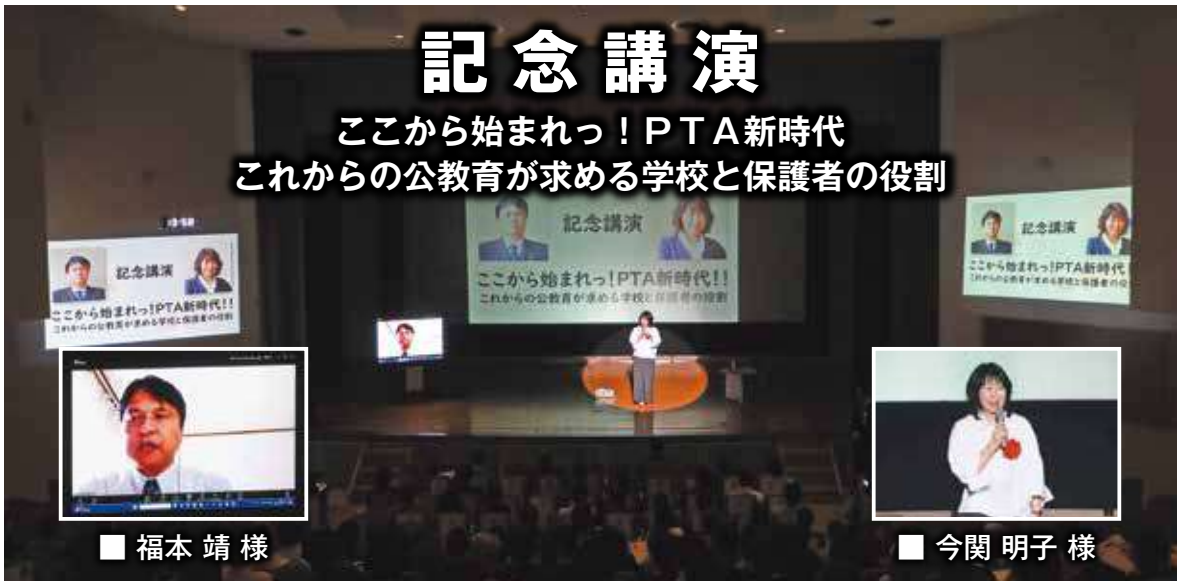
〔３７５校のＰＴＡ現状調査アンケートの回答結果を基にパネルディスカッション〕

今年度に入り、ＰＴＡの現状調査のアンケートを取らせていただきましたが、お約束通りその結果をもとにパネルディスカッションを行わせていただきます。課題として多く上がったものをテーマに掲げて、ＰＴＡ改革を実践されてきた方々からパネリストとして課題解決のヒントをお話しいただきます。

〔ＰＴＡの意義とは何か見つめなおす記念講演〕

大会テーマは「持続可能な意義あるＰＴＡ活動」です。持続の可能性は改革で高まると思いますが、意義あるＰＴＡ活動とは何か？ＰＴＡの存在意義、存在目的です。

「ＰＴＡのトリセツ」という本にはその答えになるようなヒントがたくさん書かれていました。本日は、この本を書かれたお二人からＰＴＡの存在意義について、たくさんお話を聞かせていただきます。それでは、これから記念講演、その後はパネルディスカッションとなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



今関 明子 様　あいさつ（元神戸市立本多聞中学校PTA会長）

兵庫県の神戸市から参りました今関明子です。私と福本先生は、今から１１年前の２０１３年に私がＰＴＡ副会長で福本先生が教頭の時、神戸市にあります本多聞中学校というところで出会いました。当時私は、どんなに忙しい保護者でもできるＰＴＡ役員というものを作りたいと思っており、福本先生は保護者が学校運営に参画できるような、そんなＰＴＡを作りたいと思っていました。お互いに自分のやりたい方向が合致し、３年の間に改革ができたというところです。それは「ＰＴＡのトリセツ」という本に書いてあるのですが、玄関で販売をさせていただいています。立ち読みで構いませんので、ちょっと覗いて帰ってください。

そして、今年の１月になりまして、山田さんの方からお招きをいただきました。今日はどれだけのことを皆さんにお伝えできるかわかりませんが、できる限りのことを話したいと思います。会場の皆さんで、動員で来られた方もおられるかとも思います。本当に興味がある方がどれだけおられるかなと思っていますけれども、どうぞよろしくお願いします。それでは福本先生、早速講演をお願いします。

福本 靖 様　あいさつと記念講演（元神戸市立本多聞中学校長）

先ほど紹介がありましたが、本来であればそちらに行ってお話をさせていただかなければならなかったのですが、急な公務と、議会の対応がございまして、このような形になりましたこと、申し訳ありませんがよろしくお願いいたします。それでは、今日の内容ですが、３部構成で行わせていただきたいと思います。

今日お集まりの方には、今さらというのがありますが、

①まず、全国的な視野でＰＴＡ問題って何なんだろうということをまず復習し、地域によっては組織がガタガタになっていることを確認します。

②次に、そのような中だからこそ、保護者の集まりって必要だよね、と結構言われているのですが、なぜそれが言われているかというところを考えていくのが、２部になります。

③最後にまとめとしての３部では、これから保護者会やＰＴＡをどうしたら良いのかということをお話させていただこうと思います。

ここから始まれっ！ＰＴＡ新時代!!　これからの公教育が求める学校と保護者の役割

（１）ＰＴＡの現状

復習①「これまでの何がダメなのか」

1. 加入の強制
   PTAは任意の団体、しかし加入を強制される
   法律家もその違法性を指摘！

2. 会費徴収方法や使徒について
   徴収や事務作業が学校業務と混同している
   備品購入など公費の代替となっている

3. 個人情報の取り扱い
   個人情報（電話番号や住所等）の扱いが杜撰

⇒*議論の余地なし改善が急務*

PTAは何がダメかと言われるとこの３点

①加入の強制、本来は任意。裁判にもなり、法律的にもおかしいということ。
②会費、お金の入金方法や用途が結構曖昧になっていること。
③いわゆる個人情報。今これだけうるさくなっていますので、ＰＴＡの中で使われる個人情報の住所や電話番号など、こういう情報を案外ずさんな管理をしていたということ。

復習②　では、どうしたらいい？

1. 加入は強制できない
   加入・脱退は任意であることの周知徹底
   ※加入届を年度当初に提出してもらうことが望ましい
   （脱退の自由も保障→脱退届も常備）

2. 会費徴収方法や使途について
   会費徴収について、事務作業を委託する
   ※備品購入については批判も多く慎重に！

3. 個人情報の取り扱い
   SNSを活用し、ルールを明確化
   個人情報（電話番号や住所等）を集めない

任意団体としてのPTAはどうしたらいいか

加入は強制しない。入会届、脱会届は必ず周知。会費の徴収方法や使途は明確にする。③番の個人情報は近年解決していってます。では、問題は何かというと①番。入会届を取る、脱会届を常備する、これが都市部では確実になっています。皆様が今のＰＴＡでこれを徹底したときにどうなるだろうか・・・ちょっと頭の中で考えてみてください。

復習③　その結果どうなった！

入会届を取ると
↓未加入者の急増
加入率が20%ら、半数程度になる学校も出現

1. 加入者の負担がさらに増大し、脱退増へ
2. 会費が減収し、負担金や活動資金に支障
3. 連合からの脱退

→悪循環　PTA活動の衰退

やるべきことを実行した結果

続々と入らない、なんと加入率が２０％。出たとしても普通に半数程度。当然今までの活動はできず、悪循環。予算もなく負担が集中するので、上の連合組織にも加入できず抜けていく。これが現在進行形です。神戸市の場合、小学校が１６０、中学校が８０ありますが、どんどんどんどんＰＴＡをやめていたり、保護者会という形に変えたりと、面倒だからということでやめてしまったという、これが今のＰＴＡの現状です。

PTAの現在地

・パターン①
　活動を見直し　PTA組織をなんとか維持
・パターン②
　PTAを解散し、別組織（保護者会）
・パターン③
　別組織もなにもない
※パターン④
　旧来のまま

全国のＰＴＡの現在地　４つのパターン

今、神戸市の例を出しましたが、分類してわかりやすくすると、大体全国の今のＰＴＡの位置を見ると左記の４パターンです。

パターン①は、活動を維持。活動を見直すときも、要るか要らないと思うかを大体皆さんもわかっているので、子どもに関係のない活動が多かったり、子どもに関係のない大人の都合の形式的な活動をして、結局嫌々引っ張り回したよねというようなことで、そういう活動を見直して何とか皆さんの賛同を得て、全員入会ではないけれども維持をしているという状況です。

パターン②はＰＴＡという組織を一旦解散し、別組織「保護者会」を立ち上げる。何でこうなっているかというと、やはり旧態依然としたＰＴＡに対するイメージが悪い。ＰＴＡという名前だけで入会してくれない。だからそのイメージを刷新して、保護者の集まりで、自分の子どもが学校に通っているわけですから、保護者の集まりとしての保護者会というのは有りなんですね。会費を抑えるなどそういうことをしている。保護者会にはもう一つ、パターン②´　みたいな形があり、会費を取らない。会費を取らないので、ＳＮＳを駆使したりしながら、保護者の塊だけ残そうという形でやっているところもあります。ですが、パターン②´　になりますと、お金が一切ありませんので、当然上部団体からは脱退していますし、本当に保護者だけのいわゆる有志が毎年グループの中心として１０名程度で引き継いでいく、こういうパターンで保護者会化しています。

パターン③は結構あります。よほど嫌な思いをしていたのか、思うことはなく解散。一切保護者の組織もなければＰＴＡも無しという形。ただ、これは会場におられる方々がどうなのわかりませんが、ＰＴＡ改革の流れが日本を席巻して、コロナ禍に入っていて、その辺の流れが大きくなったのか、逆に流れがとまったのかわからないですが、パターン③というのも結構あるみたいです。

ＰＴＡ改革の流れがあるが、それをあまり気にしない。本当はふつふつと湧いているが、取り上げるほどでもないですよ、というパターン④が、全国的に見ると都市部ではなく郡部を中心にあるようです。

なので、今のＰＴＡ現在地というのが大体こんな感じで分類ができています。これからのＰＴＡですが、私がそういう状況の中でそれを見て、やっぱりその人たちに任せるしかない。強制はもともとできないと思っていたんですが、今、やはりパターン③や②のところに一旦なった学校から、やはり違う意味で、やっぱり保護者組織が必要だという話が出てきています。

（２）保護者の塊の必要性

PTA（保護者会）が必要な理由①

学校現場が抱える矛盾と苦悩

多忙化対策
- とにかく時短、ブラック職場からの脱却
- 教員不足

丁寧な指導
- 特別な配慮を要する児童生徒は急増
- 拡大し続ける学力格差　etc

→ これまでの学校運営の手法では限界！

PTA（保護者会）が必要な理由②

説明責任が求められる時代

価値観の多様化
- 幅広い説明、調整、一定の納得が必要
- 学校が各保護者に個別対応することは不可能

明確な線引き
- 学校がすべきこと、それ以外のこと
- 学校依存からの脱却

→ 結局は保護者の理解や協力が重要！

PTA（保護者会）が必要な理由③

子どもの最大の当事者は保護者

「地域」というあいまいさ
- 担い手不足→地域活動の衰退
- 保護者も立派な地域住民

子どもへの関心は高い
- 行事等への参加は熱心
- 子育てへのこだわりは強い

→ 直接的かつシンプルに学校と結びつく

ＰＴＡや保護者会が必要だと言われる理由

ちょっとＰＴＡと離れますが、皆様は学校に関係する方だと思うのでちょっと考えてください。学校現場がすごく大きな矛盾を抱えているんです。その矛盾点は、先生の多忙化、昔からずっと私が教員の時も忙しかったですが、やはり今それが表に出てきています。悪循環で、先生に対するブラックなイメージが定着し、教員不足が深刻になり、どうしたらいいかということで、今までやったこともなかった先生の労働時間を計り、先生の勤務時間を抑えなさいという状況があり、これはもう完全に社会の流れです。

ところが、その一方で、学習指導要領に書いてあるのですが、丁寧な指導も必要。今は、特別な配慮を要する子どもも増えています。当然、不登校の問題などもありますが、それぞれの子どもたちが誰一人取り残されずに幸せを実感してもらう必要があると、本当に丁寧な指導が求められております。学力の差もどんどん広がっています。先生の労働時間は短くしなければいけないが、丁寧に対応しなければいけない。これは大きな矛盾なんです。

それを言われたときに、我々はどうしたらいいか考えるのですが、学校だけでは無理。学校は閉鎖的とまではいいませんが、本当に困っている課題を共有することを学校はしてきていない。ですが、今のこの矛盾に対応していくためには、もう学校の先生の中で話をして決めていくというのは無理があり、やはり子どもにとって最大の当事者である保護者にも一定数学校運営に入ってもらわないと、問題は永久に解決しないということです。

もう一つ、世の中が変わってきたのは、学校は何をするにも説明責任が求められる時代になりました。昔は「先生が言うからまあいいじゃないか。」、と言って、一見、保護者側の人たちも子どもたちも、仕方ないなと思ってくれる方が多かったです。ところが、今はもう学校への価値観が多様化し、保護者それぞれの求められることが一斉に学校にあがってくる。例えば、宿題１つでも多いという保護者、少ないという保護者もおられます。行事で何か起こったとき、子どもが大変だと言われたり、逆にそんな甘いことしていて行事になっていないと言われたり。学校は、ウイング「羽根」があるとしたら、今、目いっぱい広げています。どんな価値観の方にも対応する、そして説明責任がずっと求められる。何でこうなったんですか、何でこうするんですか。学校は説明していかなくては運営できない、そういう時代になっています。

保護者は学校教育の中で最大の当事者

もう一つ大切なことは、これって学校がすべきことなのかどうか。もしかしたら学校がすべきことではないのではないかということで、学校が無理し過ぎているから、本当にやらなければならないことが出来ていないのではないか。そういうことも踏まえて、本来は説明して納得してもらわなければならないことも全然できていない。結局どうしなければならないか、というところで保護者の理解、保護者が塊になり、横のつながりの関係で理解してもらい、やっていくということが大事なんじゃないかという考え方です。

やはり保護者は学校教育の中で最大の当事者であり、何らかの役割を果たさなければ、これだけ複雑になった学校ではやっていけない。そしてもう一つ、地域という言葉の曖昧さが結構あります。地域の人たち、簡単に言っても、それぞれの地域によりいろいろ手伝ってもらえるが、手伝い方も違えば、いろいろな協力体制も違いますので、案外地域でくくってしまって曖昧になっているんじゃないか。よくよく考えれば、保護者も地域に住んでいる地域住民です。なので、私はやはりもう一回、保護者というのはどういうものか、学校現場が大変なときにどうあるべきかと考えていると、やはりＰＴＡがどういう組織になるか、やはり保護者がいて学校に関与していくというのは本当に必要と思っています。

子どもへの関心は高い　令和の時代の学校運営

私は共働きの方が増えたとか、そういう考え方は多少ありますが、子どもへの関心が低いかというと全然低くない、それぞれ高い。それぞれ自分のお子さんに対する（関心の中でそれぞれ）関心が高いから、それをダイレクトに学校に持ってくるというやり方ではなく、保護者同士の横のつながりを作っていただいて、学校と結びつく。直接的にシンプルに学校と結びつくことて、やはり令和の時代を迎えて学校運営をしていて、多様な子どもたちに対応していくためには、保護者の塊がないと成り立たない。そういう意味で、すでにＰＴＡや保護者会が全くなくなってしまったところがありますが、どうしようか？ということにもなっています。ではどうしたらいいんだということを最後にお伝えしたいと思います。

（３）これからＰＴＡをどうしたらいいのか

これからのPTA（保護者会）①

指摘されたことは整理する

形式的なことの排除
- ・様々なしがらみにも立ち向かう
- ・無理をしない

子どものための活動に特化
- ・わかりやすいこと
- ・アンケート等の振り返りは必須

→ 段階的に組織を見直すことは必須

これからのPTA（保護者会）②

保護者の意見を集約できる塊を目指す

学校運営に参画する
- ・保護者が意見のすり合わせをし、一定の意見を持つ
- ・その意見を職員会議（学校運営）に反映させる

方法や手段は工夫が必要
- ・各学校の実情に合わせる
- ・SNSの活用は必須

→ 保護者の参画が結果として学校を救う

これからのPTA（保護者会）③

CSをうまく活用する

CSは法的根拠を持つ
- ・守秘義務も含め細かなことも議論が可能
- ・保護者代表も委員として必要

CSとの関係
- ・並列でも下部組織でもOK
- ・最終的に学校のことを理解しているのは保護者

→ CSにおいて中心となり学校運営に参画

問題を解決し、子どものための活動に特化

先ほどパターンに分けたＰＴＡがありますが、それぞれのパターンで状況が違いますので一概には言えませんが、問題として指摘されたことは、絶対に解決しなければならないと思います。例えば強制の点において、ＰＴＡの役員から逃げるための理由を言わされたとか・・・これはプライバシーです。お父さんの介護が必要だから私は行きません・・・とか。そんなことを皆の前で言わされるなども、やはり強制したり、人権的にどうなのかというようなことは絶対に整理が必要だと思います。

もう一方では、形式的なことは排除。去年の執行部を含み、前例踏襲は絶対ではない。もっと言えば、単年度決算で難しいことではありますが、それ自体が本当に必要なのかを毎年見直し検証、引継ぎをしていく必要があると思います。そして、無理をしない。やはり形式的なものを排除できない理由の中に、ＰＴＡがどうしても一番都合のいい組織なんです。つまり、頼んだらやってくれるという、なんでもかんでもＰＴＡに頼めば何かできるという過去の経緯がありますが、こういう過去の経緯やしがらみを断ち切ること。

何より大事なのは、やはり子どものための活動に特化していくこと。そうしなければ、結局ＰＴＡというのは持続可能なものにならないということです。逆に言えば、ＰＴＡは学校運営に大きな役割を果たせるものなので、やはりこういう組織は必要なのかなと思います。

保護者の意見を集約できる機能を持つ組織　学校運営に参画

そして、これは一番のポイントになりますが、保護者の意見を集約できる塊になってほしいということです。パターン①のように何とかＰＴＡを残したところはそれでも良いですし、パターン②のときのように保護者会になったらそれでも良いです。やはり保護者の意見を集約できる塊であるという存在であることが一番大きいと思います。そして、学校運営に参画すること。

学校運営に参画する保護者組織の存在の必要性と可能性

何でもそうなんですが、先生は職員室の中で色々なことに配慮しながら、できるだけ多くの保護者、子どもに喜んでもらえることを考え、会議しています。ところが、前述のとおり、これだけ価値観がばらばらになると、先生だけで考えていると難しいのです。そうなってくると、保護者が学校運営に参加したり、参加の方法は色々ありますが、ＳＮＳなどを工夫すれば、本当に保護者の意見を集約できます。例えば、保護者の方も一定の数の保護者が横のつながりで意見をまとめたとなると、学校は案外静かに従ってくれることがあります。ですが、学校が５００人の保護者のそれぞれの意見を５００通り聞いていたら、学校はもたないです。ですが、ＰＴＡなり保護者会なりで、５００人の意見を横のつながりで一定数集約して学校に出していけるなら、学校はすごく対応しやすいと思います。ですがそういうことをするにも、学校は一番楽な前例踏襲の文化がありますので、今までこうだったからこう、音楽会や文化祭はこうだからこう。けれども、価値観も多様化、時代も変わってきているし、それぞれの子どもの考え方も違ってきているのに、前例踏襲で同じことをするから問題なんです。そんなときにタイムリーに、やはり定期的に保護者の意見の塊をまとめてもらいながら、職員会議にかけていく。車でいうと右の車輪と左の車輪で学校運営していくことが、これからの時代、運営がうまくいくと思います。

自分が校長のときにそういうことを少しやりましたが、本当に私自身が助かったという印象があります。今、神戸市の教育行政を担っていますが、こういうやり方を浸透させていこうとしています。当然校長の力量を高めないとできないんです。ですが、できるだけ多くの子どもや保護者の幸せという観点からいくと、こういうことをしていく必要があり、やっていくためには保護者の塊としてまとまってもらわないと難しい。ですから、ＰＴＡが必要、ＰＴＡのような形のものが必要だという私の考え方になります。

その例ですが、学校運営協議会（ＣＳ）というのが、２０１７年に設置の努力義務として、各学校に設置するようになっています。ＣＳは、本当に学校運営について、地域代表や保護者代表やその他地域の企業の代表、要するに学校関係者以外の方々が定期的に会議をして学校の運営について意見を言うという、必要であればその意見を教育委員会に出すという、そういう組織なんです。もともと海外で始まって、この考え方は日本にも早くから入ってきてはいたんですが、日本ではあまり学校運営に口出すのはどうなのか、という風潮が根強くあり、なかなか形になりませんでしたが、２０１７年の法改正から、努力義務とはいいながら、全部の学校に設置することになっています。しかし、これは形骸化しています。そうは言っても、やはり先生が一生懸命やっているんだから、何か偉そうなことを言うのは気が進まないという感じになっています。実はこれはちゃんと意見を言うと、結構学校でもきちっと関与するということになっていますので、これをうまく活性化して、法的な根拠もありますし、そこのメンバーについては臨時の公務員としての守秘義務も定まりますし、何よりもあそこには保護者代表がいくわけですから、保護者の塊の意見を持ってＣＳに臨んでいただければ、それなりのことになっていくと思います。先ほど言った保護者の意見を反映させるやり方はいろいろあるので、必ずしもＣＳだけではないんですが、こういう組織があるので、うまく利用しながら、確実に保護者の意見、地域の意見を学校で実現させることです。

（３）これからＰＴＡをどうしたらいいのか

ＰＴＡ（保護者会）はこれからの学校運営に必要な組織

学校は、保護者や地域にお願いすることはやってきたんですよ。手伝ってもらうこと、道路の安全や、ちょっと昔の話をしてくださいなど、そういうボランティア的な頼むことはいっぱい頼んできました。しかし実際、学校の学力がどうか、この授業がちゃんとできているのかどうか、行事はこう持たなければならないのではないかなど、いわゆる学校運営の本丸のところを保護者や地域に考えてもらうということをあまりしていませんでした。地域の方がやはり不可欠という部分は地域によってばらついてはいますが、どこにでも必ずいるのは保護者なので、やはり保護者という塊をもっともっと意識を高めてもらって、学校運営に参画していただくということです。「ＰＴＡのトリセツ」を書いた時期に、全国からいろいろな問題が出ていると言われており、あまり全国の問題を意識していない中で、自分の学校でこうしたらいいのではないか、ということを実践してやっていたことがたまたまヒットして、ＰＴＡを見直すとか、ＰＴＡ改革の本、というふうに言われていますが、実は私の本当の考え方というのは、保護者の方に学校運営に入ってもらいたい。本当に入ってもらうことで子どもたちの幸せを実現したい。だからＰＴＡは大切なんだということです。ＰＴＡがどんどんなくなっていって、保護者が学校から離れていくことは全然本意ではなく、学校側もやはり今までのやり方で、都合のいい部分だけを残して手伝ってもらうということではなく、やはりきちんと自分の弱みを見せながら、恥ずかしいところも見せながら、こんな課題があるんですということをみんなで共有していく。そして、大人が知恵を絞ってできることを考えて、子どもの幸せを願う。こういう形の保護者、ＰＴＡという関係をつくっていってほしいなと、そのように願います。

１部２部３部と、現在地と保護者の塊が必要なこと、そしてこれからどうしていくかということで簡単にしゃべらせていただきました。勝手なことも言いましたけれども、これを一つの参考材料としていただき、皆様方がこれからのＰＴＡをすばらしい組織として残していくだけの材料にしていただければと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

振り返り　今関 明子 氏

ありがとうございました。何もこんな耳の痛い話をと思われた方もいらっしゃるかと思います。せっかくの機会に、もっと夢のあるふわふわした元気になるようなゲストの方を呼ぶこともできたと思います。それかまた、他の考えとしては、今日ここにいらした方が「あの人に会ってきたよ！」と、みんなに自慢できるようなそういう教育界の著名な方を呼ぶこともできたはずです。しかし、今回の実行委員会の人たちは、わざわざこんな無名な兵庫県から来た私たちを招いてくださいました。しかも、私たちのＰＴＡが直接の舞台になった中学校は、入会届を導入されるときに入会届を嫌い、入会届を収集しない、ＰＴＡ会費をいただかない保護者会という形に変えました。保護者の人たちが入会する、しないで、ＰＴＡ会員と非会員になるという、そんな分断されてしまうことを嫌ったことからそういう形をとりました。そういう私たちを呼んでくださったということに、今日のこの新潟県の人たちの本当にこれから子どもたちを守るためにＰＴＡをどうしていこうかという、本気でそこを探りに来たんだなというところに、私はそういう思いに敬意を表したいとも思っています。

これで記念講演は終わりにします。ありがとうございました。

パネルディスカッション

ＰＴＡ改革の実践者に訊く　教えて！お悩み解決策!!

司会進行　兼　パネリスト　今関 明子 氏
パネリスト　福本　靖 氏　岩﨑　智 氏
武藤 愛美 氏　山田 祐輔 氏

ＹｏｕＴｕｂｅで記念講演・パネルディスカッションの詳細をご覧いただけます

パネルディスカッション開始前に

今関氏 上部組織について

パネルディスカッションの冒頭で、今関氏がテーマに含まれていない「ＰＴＡや上部組織の意義」について触れました。ＰＴＡは、保護者や子どもの立場を代弁し、学校と効果的にコミュニケーションを取ることが本来の役割であり、学校行事の企画運営は副次的なものとされています。しかし、副次的な活動の負担が大きくなることで、ＰＴＡが弱体化したり解散したりするのは本末転倒であり、学校とのコミュニケーションの場を失う結果になると指摘しました。

また、上部組織である新潟県小中学校ＰＴＡ連合会の役割についても説明がありました。各地域のＰＴＡの声を集約し、教育委員会に伝えるとともに、県全体の教育課題を共有し、保護者や学校に情報をフィードバックする役割があると述べています。これにより、県レベルでの教育改善に寄与することが連合会の存在意義だと強調しました。

ＰＴＡ改革の実践者に訊く　教えて！お悩み解決策!!

パネルディスカッション　５つのテーマ

テーマ①会員、役員の負担、役員の決め方や拘束時間について
テーマ②単年度の欠点を解決する？
テーマ③改革途中での失敗事例　注意点
テーマ④子どものためのＰＴＡ　見える化　負のイメージ払拭
テーマ⑤パネリストより皆様へ

【テーマ１】会員、役員の負担、役員の決め方や拘束時間について

進行の今関さんより「役員の負担や決め方については、人によって感じ方が異なり、一律の解決策を見つけるのは難しい」とした上で、山田さんが取り組んだ「ＷＨＹから始めよ」という考え方について話を聞くことを提案しました。

山田さんは、自身のＰＴＡでの経験を基に、役員選びの改革と活動の方向性を共有しました。ある年、熱意ある施設部長を会長に推薦するため、役員選定のルールを柔軟に変更。その後の活動では、会長が持つ情熱的な提案を効果的に進めるため、サイモン・シネック著『ＷＨＹから始めよ』の考え方を紹介しました。

「ＷＨＹ（なぜ）」を起点に物事を考える重要性を説き、具体例としてAppleやキング牧師のスピーチを挙げ、会長にも「地域に笑顔とつながりを広げる」というＷＨＹを明確化させました。その結果、地域を巻き込んだ建設的な活動が実現し、お神輿づくりなどのプロジェクトも成功を収めました。「ＷＨＹから始めよ」の考え方が人間関係やコミュニケーションを円滑にする上でも役立つと強調し、実践を進めてきたと、お話がありました。

続いて、「役員の負担軽減や決め方について、具体的な工夫があれば教えてください」と岩崎さんに意見を求めました。

岩崎さんの学校では以前、役員を決めるルールがなく、全保護者が集まる中で会議が深夜に及ぶ混乱が発生していました。その後「２年縛り」という、２年以内に役員経験があれば会長・副会長は免除される制度が敷かれ、この仕組みでは会長・副会長を避けるため、他の役員が優先的に決まる状況が生まれました。岩崎さんは「くじ引き」からの脱却を目指しつつも、完全否定はせず、立候補を促進するために改革に着手したお話がありました。

付け加えて今関さんからは「くじ引きは避けるべきだが、現実的には難しい場合もある」とし、自身の経験として立候補制を進めるとともに、役員会の拘束時間を短縮する工夫を行ったと述べました。その後もう一度山田さんより、ＰＴＡ活動を「楽しそう」と思ってもらえる雰囲気づくりを裏テーマに掲げ、活動の方向性を明確化し、役員の自主的な参加を促すため、「ＷＨＹ（なぜ）」を重視するアプローチを採用。その結果、翌年度には１人の立候補者が現れた成功事例を来場者と共有しました。

その後、武藤さんよりお話が続きます。

武藤さんの学校では、役員選びの際のアンケートに「誰もいないならやります」という選択肢を加えたところ、スムーズに役員が決まるようになりました。以前は３～６回もの会議を経ても決まらなかったものが、この工夫により１回で解決するようになったとお話がありしました。

参考）武藤さんのアンケート資料を巻末に添付しています

テーマ１の最後に福本さんからもお話がありました。

福本さんは、ＰＴＡ役員決めが春先に行われる際、保護者間に緊張感や対立が生じる現状を振り返りました。過去には役員決めの日に保護者が外出して帰宅を遅らせたり、居留守を使うなど、対立を避ける行動が見られたことを例に挙げ、「教育現場で子どもに協力や仲良くすることを教えているのに、保護者間で争いが起きるのは矛盾している」と指摘しました。

さらに、役員決めやＰＴＡ活動については、具体的な役職の在り方や活動内容を見直し、会員数や実際に必要な役職の規模を再評価することが重要だと提案しました。「何が必要か」を後から逆算する形で組織の構造を考え直す柔軟なアプローチが必要であると述べています。

ＰＴＡ改革の実践者に訊く　教えて！お悩み解決策!!

【テーマ２】単年度の欠点を解決する？？

　テーマ２においては、岩﨑さんから最初にお話をいただきました。
岩﨑さんは､｢単年度の限界｣として､前年の事業をそのまま引き継ぐ“コピペ”状態が長年続いている現状を指摘しました。特に、挨拶運動や給食試食会など、現在の実態にはそぐわない「古い慣習」が続いている点をあげ、それを廃止したことで、お金と時間に余裕が生まれたと述べました。その余裕を活かし､ＳＮＳトラブルに対応する「情報モラル」に力を入れた事例を挙げています。また､改革の際には､校長先生や教頭先生との密なコミュニケーションが重要だと強調し、岩﨑さんの場合、校長先生が元担任だったことで、この信頼関係が円滑な改革に寄与したと述べました。さらに、反対意見を吸い上げてそれを反映することで、変革に対する抵抗を和らげた経験を参加者と共有しました。

　今関さんから、岩﨑さんの取組を受けて、「挨拶運動をやめる」といった改革案が他校で受け入れられるかについて質問しました。続けて､ＰＴＡの改革は校長や教職員との連携が鍵であり、場合によっては困難が伴うこともあると指摘しました。また、自身の経験として、校長先生と方向性が一致していたことでスムーズに事業廃止に踏み切れた一方で、異なる立場の校長の下では難航したことがあると述べました。この点から、各学校の事情や関係性が改革の成否を左右するとの見解を示しています。

　その後、山田さんは、現在の社会や教育現場は多様性が高まり、過去の「均質な」環境ではなくなったと述べました。そのため、誰も正解を知らないという前提に立ち、エラーを織り込んで、トライアンドエラーで進むべきだと主張しています。また、役員間で「誰のせいでもない」という共通認識を事前に共有することが、メンタルヘルスや物事の進行において有効だと指摘しました。さらに、変革の際には、責任を役員間で柔軟に分担することで、事業がスムーズに進むケースを紹介しています。

　そして、武藤さんは、すべての保護者を納得させるのは難しいとしつつも、事業改革の理由を明確に説明する姿勢が重要だと述べました。一例として、地域での「子ども神輿」行事の廃止に向けて、区長と話し合いを持った経験を挙げています。この際、年配者が「子どもたちの声を聞くのが楽しみ」として行事継続を主張したものの、暑さや安全面の懸念から、改革の必要性を丁寧に説明したと述べています。
　この姿勢は学校でのＰＴＡ改革にも通じるとし、反対意見を受け止めながらも丁寧に話し合うことが鍵だと示唆しました。

　福本さんは､ＰＴＡの改革には校長が主体的に関与するべきだと明言しました｡ＰＴＡは学校に依存する社会教育団体であり、校長がその責任を負わなければ、改革が進まないと述べています。さらに、校長が問題解決に消極的であれば、結果的に学校運営に支障をきたすことを警告しました。このため、学校側が改革の主体性をもつべきだと強調しています。

要点まとめ
・岩﨑 様：古い慣習を見直し、改革を進める際は教職員と信頼関係を構築すること、反対意見を吸収すること
・今関 様：改革の成否は校長や教職員との連携次第であり、場合によっては苦労するケースも
・山田 様：正解を求めすぎず、エラーを前提とした進行や役員間で責任を分担する工夫が必要
・武藤 様：反対意見を丁寧に受け止めつつ、改革の意図を明確に伝えることが重要
・福本 様：校長が主体的に関与しなければPTA改革は進まない

ＰＴＡ改革の実践者に訊く　教えて！お悩み解決策!!

【テーマ３】改革途中での失敗事例　注意点

今関さんより、テーマ③は「改革途中での失敗事例・注意点」。改革に取り組む中での失敗や課題、その解決策についてパネリストに意見を求めました。改革には試行錯誤が伴うため、失敗から学ぶ視点や注意すべきポイントを共有することで、参加者の参考になればと、話が始まりました。

岩﨑さんは、自身は改革の初年度に大きな変更を実行した経験を待っています。失敗を防ぐため、事前に反対意見や異論を吸い上げ、それらの意図を理解した上で、自らの考えをしっかり持ち、説明するよう心掛けています。また、実際に改革を行う中で「やってみないと分からない」という姿勢が重要であり、失敗を恐れるよりも、次の役員が修正できる仕組みを前提に進めていくべきだと提案しました。

山田さんは、失敗をネガティブに捉えず、成功へのプロセスとみなすべきという考え方を示しました。スラムダンクの例を引用し、努力の過程が重要であると役員内で共有。さらに、負担が特定の個人に集中するのを避け、全員で成功の方法を考える協力体制の重要性を強調しました。失敗を指摘するより、共に解決策を模索する姿勢が望ましいと述べました。

福本さんは、改革を進める際は、多くの意見を取り入れる仕組みが重要と提案しました。紙のアンケートから効率的なシステムを活用することで、より良識的な意見が得られやすくなると説明し、改革の停滞要因として地域の圧力を挙げ、ＰＴＡが学校支援を超えて地域での役割を担うケースへの対応が課題であると指摘しました。特定の問題には学校が積極的に関与すべきとの見解を示しました。

今関さんが議論をまとめ、改革は試行錯誤の連続であり、小さな一歩を踏み出すことが大切だと参加者に呼びかけ、議論の内容を忘れないうちに、明日から実践してみることを勧め、締めくくりました。

【テーマ４】子どものためのPTA　見える化　負のイメージ払拭

今関さんより、テーマ冒頭に、マスコミ報道やインターネット検索からＰＴＡの否定的なイメージ（訪問トラブル、差別、有給消化の負担など）が浮かび上がります。しかし、こうした誤解を払拭するため、ポジティブな面を伝える重要性を示唆し、議論の意図を説明しました。

山田さんは、ＰＴＡ課題の本質は対立ではなく「すり合わせ不足」であり、保護者や教師が「子どもの幸せ」という共通の目的を共有すれば解決可能だと述べました。また、自身の父親としての経験を通じて、子どもの成長が自身を支え、教師も同じように子どもたちとの関わりを喜びにしていると指摘。コロナ禍の中で地域に溶け込み、交流を重視することで見えない部分を補完し、互いを理解することの重要性を強調しました。

岩﨑さんは、中学校のＰＴＡ会則の目的である「保護者と先生の交流」を重視しています。改革を進める中で「古臭い」と感じつつも、参加率が高いグラウンド草刈りを継続した理由は、保護者・教師・子どもが集まることそのものが意義深いからだと説明し、批判的な目線ではなく、良い面を探して発信することでＰＴＡのポジティブな側面を広めるべきだと提言しました。

今関さんからは、「子どものために」という言葉に注意を促す必要があると言います。この言葉が過剰に使われることで、教師や保護者に負担を強いる場合があると指摘しました。子どものためといいつつ、実際には自己目的化してしまうリスクもあるとし、慎重な姿勢を提案しつつ、議論を福本氏に託しました。

福本さんからは、保護者が自分の子どもを大切に思うならば、周囲の幸福も重視する必要があると述べました。教師もまた子どもが好きだからこそ先生になったが、保護者や子どもとの摩擦は負担が大きい。ＰＴＡ活動を通じて保護者と教師のコミュニケーションを深め、「子どものため」という理念を共有することで、結果的に全員の幸福が増すと主張しました。前例踏襲を避け、新しいシステムや考え方に挑むことも改革の一環だと提言しています。

今関さんが議論をまとめ、ＰＴＡの問題解決にはポジティブな姿勢と協力が必要であることを再確認し、福本氏へ「遠くからでも心強い」と言葉をかけて締めくくりました。

ＰＴＡ改革の実践者に訊く　教えて！お悩み解決策!!

【テーマ５】パネリストより皆様へ

山田さんは、「完璧な人間はいない」と述べ、他者を責めるのではなく、未来志向で行動することの大切さを強調しました。「合成の誤謬（ごびゅう）」という経済学の概念を引き合いに、短期的な利益よりも長期的な視点を持つ必要性を訴えました。また、ネイティブアメリカンの「７世代先を考える」という考え方を紹介し、次世代への責任を考える行動を呼びかけました。失敗を恐れず挑戦する姿勢が、未来を切り開く鍵であると結びました。

武藤さんは、子どもの笑顔は保護者の笑顔に繋がると述べ、自身のＰＴＡ活動が家庭の雰囲気を良くした経験を語りました。学校行事を楽しむ保護者の姿が、子どもとの絆を深めると指摘。活動を「義務」と捉えず楽しむことが、子どもだけでなく家庭全体の幸福感を高める重要な要素であると述べました。学校と家庭の架け橋となるＰＴＡ活動の価値を実感し、積極的な参加を促しました。

岩﨑さんは、ＰＴＡ活動を通じて仲間とのつながりや希望を共有できることが、精神的な支えになると述べました。また、地域や学校の規模による違いに応じた柔軟な対応の必要性を指摘。特に次世代を意識した活動が重要であるとし、ＰＴＡが地域全体の未来を見据えた共同体意識を育む場であると語りました。ＰＴＡの存在意義を再確認し、未来を見据えた発展を提案しました。

今関さんは、「ゆるいＰＴＡ」を提案し、さまざまな保護者を受け入れる多様性が重要だと述べました。自身の経験をもとに、ＰＴＡ活動が個人の成長や社会的なつながりを築く機会であることを強調。また、ＰＴＡでの経験を将来的な財産と捉え、参加のハードルを下げることで、より多くの人が関われる仕組み作りが必要だと提案しました。未来を見据えた柔軟な運営を推奨しました。

福本さんは、教育長として、保護者の声を学校運営に反映させることの重要性を述べました。また、ＰＴＡ改革の進む地域と進まない地域の比較を通じ、新潟が全国の模範となる可能性に触れました。地域全体で教育の質を向上させるためには、保護者の意見を取り入れる仕組みの強化が必要と強調。PTA 活動が地域社会全体の未来を支える役割を果たすべきだと結論づけました。

■質疑応答

質問者は、ＰＴＡ活動が１年任期であるため、良い意見や成果が次年度に引き継がれずリセットされる現状を懸念しています。その解決策として、OB 制度や顧問制度の導入を提案し、具体的な成功例や失敗例を共有してほしいと求めました。

今関さんは、単年度制の限界を指摘し、改革には１年以上の時間が必要だと述べました。自身の経験から、最大３年間の任期で活動することが成果を上げる秘訣であると提案。しかし、任期が長すぎると、周囲に「任せる」雰囲気が生じるリスクも指摘し、３年程度が適切だとの見解を示しました。

山田さんは、任期の変更は可能であり、やる気と能力がある人が続けるべきだと述べました。１年の制約に縛られる必要はなく、柔軟なリーダー選びが重要であると強調しました。

福本さんは、再任を妨げない体制であれば問題は解決すると述べました。また、校長が任期変更に対する認識を持ち、積極的に支援することが成功の鍵だと提案しました。

この議論では、単年度制の見直しや柔軟な運営体制の必要性が共通のテーマとして浮き彫りになりました。

閉会式

木村実行副委員長の開式の言葉から始まり、閉会のあいさつ。
山田小千谷大会実行委員長より宮下新潟県小中学校ＰＴＡ連合会会長に大会旗が返還され、そして、次期開催地域である妙高市小中学校ＰＴＡ連合会に手渡されました。

次期開催地の紹介　妙高市小中学校PTA連合会

妙高市は、平成１７年に３つの市町村が合併し、小学校７校、中学校が３校、総合支援学校が１校ございます。妙高市は、温泉、スキー場、ゴルフ場、リゾート地が多くあり、観光地として有名でございます。その中で、食において昨年、給食の大会で新井中央小学校が見事全国優勝という結果を残し、新潟県の名前を全国に轟かせました。妙高は、小学校時代から観光資源でもある雪深い所での授業も盛んです。食や観光に携わる中で、皆さんご存知のヒカキン、そしてスポーツ選手や多くの著名人を輩出しております。

先ほど、山田実行委員長から熱い思いをいただきました。そして、この大会旗と責任を感じ、皆様が何か一つでも持って帰れる、そして、ＰＴＡや学校、子どもとの関係をさらに楽しくできる、そんな妙高らしい大会を目指します。来年はぜひ観光と食を合わせて、妙高の地へ足を運んでいただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

閉会のあいさつ　小千谷大会実行委員長　山田一郎

本日は小千谷大会にご参加くださいまして、誠にありがとうございました。本日の内容がこれからの活動の何かしらのヒントになれば幸いですが、来年もＰＴＡの役員をやっている方々がどれだけおられるのかな？とも思います。

大会のサブテーマに「未来の会員のために」とさせていただきましたが、大会要項の講師パネリストのプロフィールは詳細を残しました。大会内容は、後日YouTubeで無期限の予定で配信します。大会報告書はデジタル化し、ＵＲＬやＰＤＦでいつでも誰でも見れるようにさせていただきます。私たちはみんないなくなるので、少しでも未来に残せる資料を用意させていただきます。

ぜひ先生からも改革の声をあげてみていただきたい。私たち保護者は子どもの卒業とともにいなくなります。しかし、先生は学校にＰＴＡがある限り、やり続けなければなりません。であるならば、先生にとってもより良い環境が必要です。保護者は役員をやっても、ほとんどの人が長くても２、３年です。保護者は混乱を心配し、改革に踏み込めない場合もあります。そして、保護者はお客様ではありません。必要以上に気を使う必要はないと思います。きっと改革を待っている保護者もおられると思います。何卒よろしくお願いいたします。

今大会を通じて、ＰＴＡのあるべき姿について考えてみました。

「**共通の目的を持った保護者と教員が、時代にあったより良い学校教育環境を対話を持って協働創造する組織**」です。参考にしていただけたら幸いです。

保護者と教員の今まで以上により良い関係が構築され、結果、子どもたちにとってより良い学校教育環境が整っていきますことをご祈念申し上げ、感謝を添えて、１つの問いを残して、ご挨拶を終わらせていただきます。

皆様、県Ｐ連の存在意義は何だと思いますか？

本日は本当にありがとうございました。

第63回新潟県小中学校PTA研究大会小千谷大会役員　実行委員会委員

● 新潟県小中学校ＰＴＡ連合会　本部役員

会　長	宮下あさみ（長岡市出雲崎町）
副会長	今井　康弘（妙高）
副会長	藤巻　優樹（十日町市津南町）
副会長	長下部眞太（新発田）
監　事	百都　順也（阿賀野）
監　事	宮坂　哲也（柏崎）
事務局	玉木浩　山下あい子　大久保祐子　羽田野悦子

● 小千谷大会実行委員会（順不同）

研究大会役職	名　前	所属/単P役職（市P連役職）	研究大会役職	名　前	所属/単P役職（市P連役職）
実行委員長	山田　一郎	小千谷中P会長（市P連会長）	Bチームリーダー	木村　雄介	小千谷小P会長（市P連副会長）
副実行委員長	森本恵理子	小千谷中P評議員	Bチーム副リーダー	南雲　丈克	小千谷小P
副実行委員長	木村　雄介	小千谷小P会長（市P連副会長）	Bチーム執行部	大形　　学	小千谷中P
副実行委員長	渡辺　大地	南中P会長（市P連理事）	Bチーム執行部	保坂　博和	小千谷中P事務局幹事（市P連幹事）
Aチームリーダー	渡辺　大地	南中P会長（市P連理事）	Bチーム委員	北村　弘行	東小千谷中P共同代表（市P連幹事）
Aチーム副リーダー	黒﨑慎一郎	片貝小旧P会長	Bチーム委員	渡邊　　類	東小千谷中P共同代表
Aチーム執行部	山田　健太	小千谷小P	Bチーム委員	佐藤　　瞳	東小千谷小P会長（市P連副会長）
Aチーム執行部	大川　嘉人	小千谷小P	Bチーム委員	大場亜梨沙	東小千谷小P副会長
Aチーム執行部	森本恵理子	小千谷中P評議会	Bチーム委員	廣井　一恵	東山小P会長（市P連理事）
Aチーム委員	佐藤　優子	小千谷中P	Bチーム委員	平澤　　昇	東山小P副会長
Aチーム委員	佐藤　　太	小千谷中教頭	Bチーム委員	和田　　猛	千田中P会長（市P連理事）
Aチーム委員	堀澤　直美	小千谷中P2学年委員	Bチーム委員	川上　　巌	千田中P副会長
Aチーム委員	鈴木　海斗	小千谷中P	Bチーム委員	新保　正博	千田小P会長（市P連理事）
Aチーム委員	横田　　香	小千谷小P副会長	Bチーム委員	渡邊　哲也	千田小P副会長
Aチーム執行部	関　　龍馬	小千谷小P副会長	Bチーム委員	吉田　貴史	総合支援学校P会長（市P連理事）
Aチーム委員	大西　洋子	小千谷小P副会長	Bチーム委員	上野　保治	総合支援学校教頭
Aチーム委員	横山　貴司	小千谷小教頭	Bチーム委員	鈴木　　武	和泉小会長（市P連理事）
Aチーム委員	金子　光浩	吉谷小P会長（市P連理事）	Bチーム委員	小曽納純子	和泉小教頭
Aチーム委員	関　　利行	吉谷小P副会長	Cチームリーダー	山田　一郎	小千谷中P会長（市P連会長）
Aチーム委員	石上　崇博	片貝中会長（市P連理事）	Cチーム副リーダー	木村　勝年	小千谷中P副会長
Aチーム委員	吉井　雄介	片貝中P副会長	Cチーム委員	目﨑　絵美	小千谷中P副会長
Aチーム委員	淺田　　満	片貝小P会長（市P連副会長）	Cチーム委員	渡邊久美子	小千谷中P副会長
Aチーム委員	大矢　諭志	片貝小副会長	Cチーム委員	波間　江美	小千谷中P
Aチーム委員	高橋　雅人	南中P副会長	財政局	星野　裕司	小千谷小P
Aチーム委員	川上　智志	南中P副会長	会計	保坂　博和	小千谷中P事務局幹事（市P連幹事）
Aチーム委員	瀧澤　　茂	南小P会長（市P理事・県P理事）	大会事務局	大橋　直子	小千谷中事務局（市P連事務局）
Aチーム委員	井浦　敦史	南小教頭			

【テーマ1】会員、役員の負担、役員の決め方や拘束時間についてパネリスト武藤様が実際に学校で活用している役員募集アンケート内容の一部です。参考事例としてご活用ください。

アンケート

お子さんの学年・名前（　　）年（　　）組　名前（　　）

1．来年度の本部役員の立候補について、以下の当てはまる所に〇を記入してください。

・（　　）来年度の本部役員に立候補します。　　名前（　　）

・（　　）立候補者数が不足する場合に立候補します。　名前（　　）

・（　　）来年度の本部役員に立候補しません。

2．来年度の本部役員になっていただきたい方がいましたら、その方のお名前とお子さんの学年・名前を記入してください。

・次の方を本部役員に推薦します。　　名前（　　）

分かればその方のお子さんの学年・名前（　　）年（　　）組　名前（　　）